

只見町ブナセンターだより

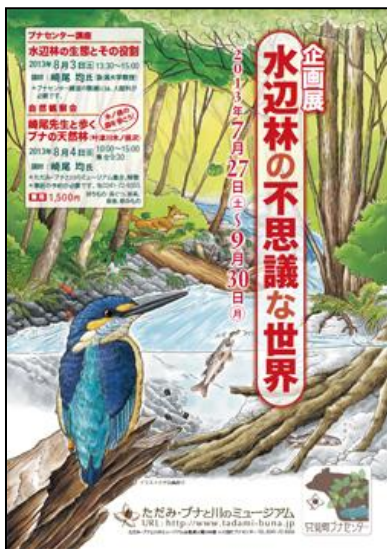
企画展

「水辺林の不思議な世界」

<期 間>

2013年7月28日(日)～9月30日(月)

7月28日(日)から開催している「水辺林の不思議な世界」では、水辺林の魅力と重要な役割を写真入りのパネルで分かりやすく解説しているほか、“水辺林の植物標本”や“関係書籍”などの展示を行っています。



【次回イベント情報】

■猪又かじ子写真教室

大田木地師集落跡とブナの天然林

開催日：9月8日(日) 10:00～14:00

■町外展示

「自然首都・只見」郡山展 ビッグアイ6F 市民ふれあいプラザ 展示室1

開催日：9月18日(水)～9月22日(日) 10:00～18:00

※ご予約、詳しい情報は、只見町ブナセンターまでお問い合わせください。

【活動報告】

■企画展

〈只見町の巨樹・巨木〉



2013年1月5日から4月15日の期間で、企画展「只見町の巨樹・巨木」を開催しました。

只見町で見られる巨樹・巨木を写真解説付きのパネルで紹介したほか、樹木の測定方法の解説、測定を行うための機器や関連書籍の展示を行いました。

来場された方からは、「雪が消えたら、ぜひ見に行きたい」という声もあり、巨樹・巨木好きにはたまらない企画展となりました。

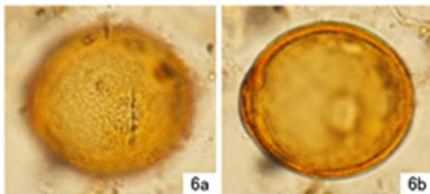
■ブナセンター講座 〈只見町古環境と人々の暮らし〉 3月22日(土)



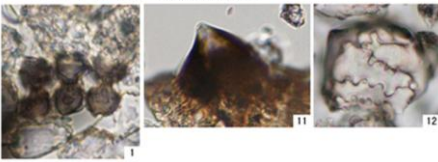
只見町の史跡調査をされている只見町教育委員会の渡部賢史さんを講師に迎え、史跡調査からいったいどのようなことがわかるのか、お話ししていただきました。

まず初めに、遺跡から発見される資料には、古代の様々な情報が残されているというお話があり、その情報を読み取るために、いろいろな解析方法があるということがわかりました。

■ブナ属の花粉化石



■イネ科の植物珪酸体



その中に、土の中に含まれる“花粉化石”や“植物珪酸体”（植物に含まれるガラス質の結晶）を調べる方法があります。これらの解析は、その時代の植生や作物を探ることができ、古代の環境を知る手がかりになるということでした。特に、植物珪酸体はイネ科の植物に多く含まれ、形もそれぞれ違うので稲作を行っていたかどうかということもわかるそうです。

町内の遺跡の発掘調査のお話では、とくに黒谷館跡の「さまざまな花粉化石が出てきた中で現在只見町に自生していない植物の花粉化石が発見された」という興味深いお話がありました。そのほかに、「只見町の遺跡から出土した黒曜石を分析したところ、そのほとんどが新潟県や山梨県産ではなく、長野県の西霧ヶ峰産だということがわかっている」という話もあり、縄文時代に長野県と物資のやり取りがあったとはびっくりです。

質疑応答では、「豪雪の中で昔はどんな生活をしていたのか？」など、さまざまな質問が寄せられました。20名の方が聴講され、「遺跡の発掘調査を行っていることは知っていたが、そこからどのようなことがわかるのか、話が聞けてよかった」「普段聞けないお話を聞いて興味深かった」などの感想が聞かれました。

■自然観察会 〈冬のブナ林を歩く〉 3月23日（日）



深沢集落で、冬のブナ林の観察会を開催しました。町内外から10名の方の参加がありました。冬の林内を普通に歩こうと思っても足が沈んでしまうので、2月の観察会同様、カンジキやスノーシューを履いての観察会となります。

林内に入ると、様々な動物の痕跡が見つかりました。まず、ウサギがブナの芽を食べた食痕を観察することができました。その後、鳥の巣やカモシカの足跡などが見つかり、静かに見える森の中でも沢山の生き物が生活していることがわかります。

ブナの林の中では、トチノキの冬芽に触ってねばねばとした感触を体験したり、つる植物やブナの木の様子を観察しました。その後、野鳥やカモシカのため糞、熊棚を見つけることができました。

町外の参加者がスノーシューを履いているのに対して、町内の参加者のほとんどがカンジキを履いて参加され、今時に負けない只見らしさを感じました。参加者からは、「今まで足跡の観察をしたことがなかったが、わかると面白い!」「冬芽はいつも高い位置にあるので、雪上での観察会は手にとって見ることができて楽しかった」等の感想が聞かれました。

■春の自然観察会

春の自然観察会として、“春植物”と“ブナ林”の観察会を開催しました。今年は、両日共に去年の倍以上の参加があり、とても賑やかな観察会となりました。

〈春植物を愛でる!〉 5月4日（土） 観察地：黒谷川沿い



観察会当日は天候にも恵まれ、フクジュソウの大群落やカタクリ、キバナノアマナ、キクザキイチゲ等のスプリング・エフェメラルが咲く姿を、観察することができました。

黒谷発電所脇のユビソヤナギの観察では、平成23年7月におきた新潟・福島豪雨災害のユビソヤナギへの影響や、ユビソヤナギと他のヤナギ類の区別など学術的な点からの解説があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

その後、白沢地区の河川改修現場で、フクジュソウを人工的に移動し再度戻した箇所、植林されたユビソヤナギの観察を行いました。

最後に、町の天然記念物に指定されている黒谷川のキタコブシの巨木の観察を行いました。まだ満開ではありませんでしたが、写真を撮影したり、落ちていた花弁のにおいをかいでみたりと、思い思いに観察を行いました。

参加者からは、「初めて自然観察会に参加したが、また来たい」「解説がわかりやすく詳しいのでとても為になる」等の感想が聞かれました。



〈残雪のブナ林を歩く〉 5月5日（日） 観察地：癒しの森



昨年は雪解けが早くほとんど雪が残っていない中の観察会でしたが、今年は寒波の影響もあり沢山の雪が林内に残っていました。雪が残っていることから「根開け」と呼ばれる現象や、動物たちの糞（カモシカ、ノウサギ、ムササビ等）を観察することができました。

スギの林を抜けるとブナの木が目立ってきます。ブナの枝を観察すると、枝先が濃く影になって見える所が沢山あります。これはブナの花芽が付いている所で、花が咲く前に見分けることができます。

ブナの交流広場では、今年の春先に寿命と強風のために倒れてしまった「国界の大ブナ」を観察しました。鈴木和次郎ブナセンター館長からブナの倒木についての説明を受け、倒木の胸高直径と樹高を計測しました。

国境の大ブナ 胸高直径：122.5cm 樹高：29.6m

ブナの寿命は、300年前後と意外に短く「国界の大ブナ」も樹齢300年ほどだということと寿命で倒れたと言えるだろうと説明がありました。ブナの大木が倒れたことでできた空間がどのように変わっていくかこれから楽しみです。説明を受けた後は、倒木を背に記念撮影を行いました。



交流広場を後にし、折り返し地点の「大岐の戸板山眺め」へ向かいそこで昼食を取りました。途中で昨年のブナの実生や、ブナノミタケ、冬眠から目覚めたモリアオガエルを見つけることができました。大岐の戸板山眺めでは、オオイワウチワの観察を行い、ピンクの可憐な花を写真に収めました。

■只見町ブナセンター運営委員会 5月29日（水）



「ただみ・ブナと川のミュージアム」セミナー室において、平成 25 年度只見町ブナセンター運営委員会が開催されました。運営委員および事務局、併せて 18 名が出席しました。

運営委員長の目黒国友さんの挨拶をはじめ、運営委員会が開催されました。運営委員の変更や指導員が新たに加わったこともあり、自己紹介が行われました。その後渡部勇夫ブナセンター長から挨拶があり、目黒邦友委員長の司会進行で議事が行われました。

議事は、平成 24 年度の事業報告が行われ、運営委員会からの質疑を受けました。来館者数について、「特定の人以外の地域の人が離れているような気がしている」との指摘がありました。これに対して事務局側からは、「一般的に展示は 1 度見たら十分といわれることが多い。そのため、町外からの集客に力を入れている。町内向けには、企画展準備の際に協力を得るといったかわりを作っている。」と説明がありました。

次に、平成 25 年度の事業計画についての説明があり、質疑応答では「観察の森」や「公認ガイド」についての質問が上がりました。「観察の森」への立ち入りは、地元の方への配慮から、ガイドの同行ができない場合は、来訪者への注意点の申し渡しの厳守が必要であることへの理解を求めました。

公認ガイドについては、ブナセンターではガイドの育成や自然教育という点で関わり、観光協会などと作業分担して行っていきたいと説明がありました。

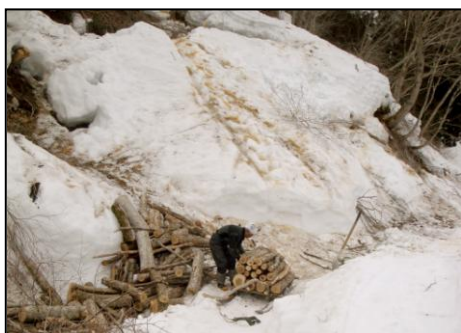
最後に目黒邦友委員長より、運営委員に対してブナセンターの運営に引き続きご協力いただけるように要請があり、閉会となりました。

■ブナセンター講座 〈歴史遺産としてのあがりこ〉 6月8日(土)

今回の講座は、鈴木和次郎ブナセンター館長に“あがりこ”について、お話をいただきました。はじめに「人による森林利用が森を変える！」という話があり、良く見ると森には、あちらこちらに人による利用の跡があるそうです。

次に、「あがりこ型樹形」の出来方についてお話がありました。幹や枝を切ると、新しい枝がたくさん伸びてきます。これを萌芽といい、この枝が成長すると独特な樹形になります。この特異な樹形の事を「あがりこ型樹形」と呼ぶそうです。

只見町のブナには、秋季に行われる炭焼きの「かじご焼き」に伴った地際伐採による地際からの萌芽更新と、冬季の「春木伐り」(写真下)と呼ばれる雪上伐採による頭上更新により形成された、複合型(写真左)と呼ばれるあがりこが見られます。



今井 博さん撮影

あがりこ型樹形は、世界各地に存在し、薪や炭などの利用で伐採するほか、放牧した家畜による食害を防ぐため、あるいは飼料としての採集など、様々な目的で利用された結果、形成されたということです。あがりこ型樹形は、人による森林利用の歴史を残す貴重な遺産であると言えるでしょう。

15名の方が聴講され、最後の質疑応答では沢山の質問が上がるなど、「あがりこ」に対する関心がより深まった講座となりました。

■自然観察会 〈梁取「学びの森」と大曾根湿原〉 6月9日(日)



当日は天候にも恵まれ、エソハルゼミが鳴くなど初夏らしい陽気の中で開催することができました。

観察地である「学びの森」は“ブナの二次林”です。ここでは、二次林のでき方や林床の様子についての解説を聞きながら観察を行い、ブナのあがりこ型樹形もじっくり観察することができました。そのほか、林床でギンリョウソウも見られました。

その後、只見町の天然記念物に指定されている大曾根湿原へ移動し、昼食を取った後、初夏の湿原の観察を行いました。湿地の周囲には、カラムツの林があり、ここは昔放牧地だったそうですが、今の様子からは想像できません。

大曾根湿原は、かつて人の手が加わったことで乾燥化が進み、コケや植物の盗掘もあったそうです。観察会には19名の方が参加され、貴重な自然を守っていく必要性を再確認する観察会となりました。



【今後の活動予定】

■2013年度只見町ブナセンター年間行事予定

開催時期	行事名	備考
7月28日(日) ～9月30日(月)	企画展 水辺林の不思議な世界	水辺林とは何か?その特徴や種類、機能とその役割を解説パネルで紹介します。
8月3日(土)	ブナセンター講座 水辺林の生態とその役割	講師：崎尾均氏（新潟大学教授） 水辺林について詳しくお話していただきます。
8月4日(日)	自然観察会 崎尾先生と歩くブナの天然林	講師：崎尾均氏 観察地：叶津木ノ根沢
9月8日(日)	写真教室 大田木地師集落で写真を撮る！	講師：猪又かじ子氏（写真家） 撮影地：布沢大田木地師集落
9月18日(水) ～22日(日)	町外展 〈県内展示・郡山展〉 「自然首都・只見」展	開催地：郡山市民プラザ（ビックアイ6F） 展示室1にて開催
10月上旬～ 12月下旬	企画展 只見に生きる野生動物を知る！	只見町にはどんな野生動物が生息しているのか？その生態と人との関わりを紹介します。
10月下旬	自然観察会 秋のブナ林を歩く	講師：鈴木和次郎氏（ブナセンター館長） 観察地：沼ノ平を予定
10月	料理教室 秋の実りを食べる！	講師：平出美穂子 只見町で採れる秋の実りを料理します！
11月10日(日)	ブナセンター講座 ツキノワグマの生態と付き合い方	講師：山崎晃司氏（茨城県自然博物館）
1月～3月	企画展 ユネスコエコパークが描く只見の未来	只見町で登録を目指すユネスコエコパークについて、解説パネルで紹介します。
1月	ブナセンター講座 地域振興におけるユネスコエコパーク ユネスコエコパークの可能性	講師：酒井暁子氏（横浜国立大学） ユネスコエコパークについて、地域振興における影響と、可能性についてお話していただきます。
1月11日(土) ～19日(日)	町外展 〈県外展示・宇都宮展〉 「自然首都・只見」展	開催地：栃木県立博物館にて開催
2月下旬	ブナセンター講座 雪食地形と植物	講師：小泉武栄氏（東京学芸大学）
2月下旬	自然観察会 冬のブナ林を歩く	観察地：下福井、楢戸（観察の森を予定）
冬季予定	ブナセンター講座 只見町の農村歌舞伎	講師：渡部康人氏（南会津博物館）
冬季予定	料理教室 冬を料理する！	講師：平出美穂子氏

〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地「ただみ・ブナと川のミュージアム」内



開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）

入館料：高校生以上 300円 小中学生 200円 未就学児無料（20人以上は団体割引）

■Tel 0241(72)8355 ■web <http://www.tadami-buna.jp>

只見町ブナセンター

■fax 0241(72)8356 ■E-mail info-buna@amail.plala.or.jp